清水港の名物男　遠州森の石松（1958）

メディア 映画
ジャンル 時代劇
製作国 日本
色彩 Color
時間 98分
初公開日 1958/06/29

【解説】
　村上元三の小説『次郎長三国志』の終盤に描かれるエピソード「石松の金比羅代参道中」を元に「おしどり駕篭」でコンビを組んだ観世光太（山上伊太郎のペンネーム）が脚色しマキノ雅弘が監督した。中村錦之助が「任侠清水港」に続いて森の石松を演じ、石松の一生に一度の恋を描く。
　清水の次郎長親分に命じられ、讃岐の金比羅まで刀の奉納に行った森の石松。道中「飲む」「打つ」は禁じられたが、なぜか「買う」だけは許されていた。途中で小政という男と知り合った石松は、どんな女だろうと自分に惚れてくれれば幸せだと教えられる。讃岐の色街に出かけた石松はそこで夕顔という女郎に出会い一目惚れ。身受山の鎌太郎から二人の仲を取り持とうと言われ喜ぶ石松だったが、金を返すために立ち寄った村でやくざたちに取り囲まれてしまい…。

【クレジット】
監督 マキノ雅弘
企画 辻野公晴
　　中村有隣
原作 村上元三
脚本 観世光太
撮影 三村明
美術 川島泰三
音楽 鈴木静一
出演 中村錦之助
　　中村賀津雄
　　丘さとみ
　　中原ひとみ
　　志村喬

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.